校長通信（教職員版）第５３号　２０１８．１０．９

９月29日ＰＴＡ講演会報告

竹原和泉氏の講演会

以下の原稿は、府立学校メールマガジンに投稿予定の原稿です。事前に先生方に情報提供します。

「地域と共にある学校とは・・・」ＰＴＡ講演会の報告

大阪府立〇〇高校　校長　上野　佳哉

９月２９日（土）、大阪府立〇〇高校ＰＴＡ企画として、「地域と共にある学校とは・・・」というテーマで講演会を実施しました。講師には、横浜市立東山田中学校コミュニティハウス前館長の竹原和泉さんをお招きしました。竹原さんは、平成１７年に東山田中学校がコミュニティスクールとして開校した時、同時に開設されたコミュニティハウスの館長を 11 年間務められ、現在は中学校ブロック学校運営協議会会長をされています。平成 27 年５月より、中央教育審議会生涯学習分科会学校地域協働部会専門委員も務められ、また、文科省コミュニティスクールマイスターとして全国で活動をされている方です。以下、今回の講演会について、コミュニティスクールとは何かということも含め、報告したいと思います。

【１】講演会実施のきっかけ

なぜ、このような講演会を企画することになったか。もともとは、校長である私が、ＰＴＡにお願いをして、竹原さんに講演依頼をした企画です。依頼した理由は、次の２点です。

第１点。大阪府立高校の学校協議会が平成３０年度から学校運営協議会に変わりました。ご存知のように、この変更に伴い「学校経営方針の承認」ということが必要になります。また、教育庁への「人事に関する意見具申」も可能になります。そして、さらに重要なことは、「学校運営協議会が設置されたことにより、全ての府立高校がコミュニティスクールになった」ということです。ところが、このように府教育庁から通知があっても、「コミュニティスクールとは何か？果たしてどんな活動をする学校なのか？」ということについては、なかなか想像しがたいものがあるのではないでしょうか？私は、平成２８年度から２９年度の２年間、兵庫教育大学大学院の新しく開設された「教育政策リーダーコース」で、コミュニティスクールの取り組みについて学んでいたので、「学校協議会が学校運営協議会に名前が変わったからといって、すぐさまコミュニティスクールが出来あがるというものではない」という感想を持っていました。そこで、とりあえず〇〇高校において、地域の人たちや保護者がどのように学校に関わればよいか、その実践を学ぼうと思い、今回の企画を考えたのが第一の理由です。

第２点。それは、教職員の働き方改革にも関わることです。少子化の影響で各府立学校の学級減が続いています。〇〇高校も今年度１年生が９クラスから８クラスに減りました。その関係上、教職員定数が２名減となりました。２名減となったとしても、学校としての仕事が減るわけではありません。やらなければならない仕事は、山ほどあるのが学校現場です。教職員の働き方改革を進めるには、「ヒト・モノ・カネ」を学校現場に注ぎ込むしかないと思っていますが、それも大阪府の財政事情では儘ならないのが現状です。このことは、生徒へのしわ寄せとなって現れてきます。本校では図書館の開館と進路資料室の閲覧が、問題となりました。開設のための当番が決まっていても、教職員の多忙化から両室とも開館が常時できないという事態だったのです。しかし、このような問題の解決策の一つとして、私は〇〇高校に赴任した時点から「外部人材の活用」を提唱してきましたが、２年経っても一向に校内的な議論が進まないという状

況でした。業を煮やした私は、「保護者への協力依頼」を提案しました。ところが、この提案でさえ、紆余曲折があり、今年度の7月にやっと実現したという始末です。教職員にとって、地域の人はもちろんのこと、保護者でさえ「学校に関わってもらうことに対してこれほど抵抗感があるのか」ということに直面し、教職員の意識の壁というものの厚さ・高さを実感した次第です。そこで、今回のコミュニティスクールへの変更を機会に、「これからの学校は、今までのように、教職員一色のモノトーンの職場ではなく、様々な方々が関わる『チーム学校』でないといけない。そのために、教職員にはよりチーム力が求められる」ということを理解してもらいたいと思い、今回の企画を考えたのが第二の理由です。

【2】そもそもコミュニティスクールとは？

講演会の報告に入る前に、そもそもコミュニティスクールとは、どのような学校なのか？どのような活動を学校運営協議会は行うのだろうか？この点を紹介したいと思います。

（1）コミュニティスクールの導入状況

文部科学省の webpage に全国のコミュニティスクール導入実数（平成３０年度４月１日現在）が示されています。それが次の表です。

	設置校数	増加数(前年度比)
幼稚園	147 園	32 園増
小学校	3,265 校	965 校増
中学校	1,492 校	418 校増
義務教育学校	39 校	15 校増
中等教育学校	1 校	0 校増
高等学校	382 校	317 校増
特別支援学校	106 校	85 校増
合計	5,432 校	1,832 校増

今年になって、高校が急増していることが見て取れます。その中に全ての大阪府立高校が含まれているわけです。一方、全体を見てみると、圧倒的に義務教育学校が多いことがわかります。コミュニティスクールは、小学校から中学校へ順次導入されていったというのが全国的な流れで、大阪府のように、小中学校段階の導入や実践があまり進んでいないところに、いきなり高校がコミュニティスクールにはなったというのは、異例の事象といえるでしょう。

それでは、大阪府下の小中学校で、コミュニティスクールを導入している学校は、どれほどあるのでしょう。同じく平成３０年４月１日段階の文部科学省の資料では、大阪府の市町村でコミュニティスクールを導入しているのは１７校、全体の１．９％です。お隣の奈良県で１３．１％、兵庫県で７．５％、京都府で１４．４％、和歌山県で５８．４％ですから、如何に大阪府の市町村レベルでの導入が少ないかが分かります。私は、一昨年度大阪府でも数少ないコミュニティスクールを全市導入している河内長野市でコミュニティスクールに関するフィールドワークを実施しました。河内長野市立千代田小学校の学校運営協議会に河内長野市の指導主事と一緒に参加させてもらったのです。その様子を紹介することで、コミュニティスクールの実態を紹介したいと思います。

（2）河内長野市立千代田小学校の学校運営協議会の様子

まず、河内長野市の学校運営協議会の取組です。各校に対して市教育委員会から次のようなガイドラインが示されています。

以下は平成 28 年度のものです。

①人数

各学校１５名（うち地域関係者１０名）

構成は、各小学校によってまちまちであるが、ＰＴＡ代表、健全育成協議会代表、青少年指導員、自治会代表などが、地域関係者として参加している。

②会議回数

6 回／年　（4・6・8・10・12・2 月を標準としている）

年 6 回の開催を行い、学校運営協議会を運営している。学校運営協議会の下には、各校独自の委員会が設けられているので、その委員会の会議回数を合わせると、さらに、会議の回数は増える。

③費用

予算額 1 校あたり 812,000 円

委員報酬　492,000 円（会長 10,000 円、委員 8,000 円）

講師謝礼　20,000 円

これを見る限り、かなり手厚い支援がなされえいることが伺えます。コミュニティスクールの導入により、次のような成果が公表されています。

・教員数減少のために断念していた冬山登山やマラソン大会の復活
・地域見守り隊の協力で、交通安全教室のルートが学校外に拡大
・農家の方の耕耘機で花壇の整備
・大人と子どもでトイレの大掃除
・放課後学習教室の新設、学校図書館開館日の拡大
・人生体験を語るキャリア教育

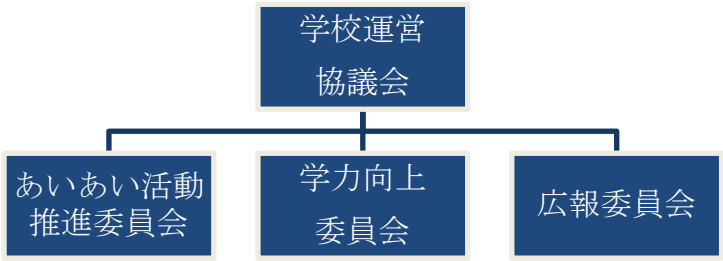
実際、市の指導主事への聞き取りでは、以下のようなことがわかりました。

＊教員不足で校庭の田んぼの管理が出来なくなった。それに気づいた地域の方々が、自然発生的に田んぼの手入れをして頂き、大変助かった。
＊蛍の鑑賞会を運営協議会が企画したところ、夜の遅い時間にも関わらず、小学生のみならず 280 名もの地域の住民が参加した。
＊星についての勉強をしようと企画した時、地域で星の写真撮影をしている方にパネルを用意してもらった。パネルを持参してもらったら、子ども達が興味を示し、その場で星の説明が始まった。

私は実際に千代田小学校の学校運営協議会を見学しました。13 名の委員が参加されていました。会長挨拶、校長挨拶のあと

①当面の懸案事項について
㋐チョックス楠との合同会議　㋑フォトコンテストについて議論がされました。チョックスとは、千代田中学校校区の二つの小学校、千代田と楠両校の名前からとった造語で、両校の合同会議が企画されています。
②各委員会には、㋐あいあい活動推進委員会㋑学力向上委員会㋒広報委員会が設置されています。
㋐あいあい活動推進委員会では、駅前あいさつ活動、黄昏（駅前）コンサート、街づくり防災マップの作成、千代田寺小屋などが議論され、最初の二つこそ準備されたレジュメの項目であったが、それ以外は各委員が小学校のために、独自に取り組んでいること、またこれから取り組んでいきたいことの提案が積極的になされていました。
㋑学力向上委員会では、「漢検、算数検定実施の案内」の配布が議論されました。児童・保護者への案内文は、校長名だけではなく、運営協議会の会長との連名です。担当指導主事に聞くと、どの小学校でもこの体裁が通常であるということでした。

千代田小学校の学校運営協議会では、平成２８年度当初では下図のように各委員会が設置されています。年３回、学校協議会を開催し、それを踏襲することになった大阪府立の学校運営協議会とは、かなり実態が違うことが分かっていただけると思います。
以上のことを踏まえて、今回竹原さんを招いた講演会の報告を行いたいと思います。



【3】竹原和泉さんの講演

（1）ご自身の体験から

竹原さんは、ご自身の子育ての体験から話を始めました。竹原さんには三人のお子さんがあり、子育ての時期をアメリカで過ごされたそうです。アメリカでの子育てで学んだことは、たくさんあり、それが今でも活動の原点になっているとのことです。

例えば、豊かな褒め言葉。アメリカでは、小学生の野球の試合で三振しても、「Good eyes!（制球眼がある）」と褒める。大量失点で負けても「Great game!（良い試合だった！頑張ったね）」とみんなが褒めるらしいです。勝っても怒られることがある日本とは大きな違いだと話されました。そんな文化の中で、関わったＰＴＡ活動では、共働き家庭が多いために夜に保護者会があったり、多彩なＰＴＡ活動が行われていたそうです。その一つが、学校や地域の情報が一つになったコミュニティカレンダーの作成です。このカレンダーの作成は、東山田中学校区でも実践されており、現在では全国でその取組が進んでいるという事です。

（2）高校でのコミュニティスクールの取組

今回は、高校での講演会ということで、高校での取組を紹介していただきました。神奈川県立市ケ尾高校の取組です。中高生が地域の人たちと一緒になってまちづくりの活動「市ケ尾ユースプロジェクト」という取組が行われていて、その中から、チーム「まもる」の取組を紹介してくださいました。「まもる」は、クラブ活動や塾の帰りに中高生が「怖い

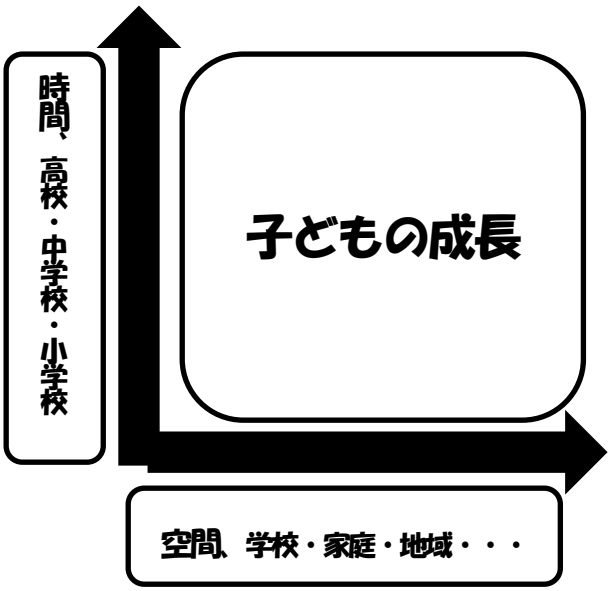
な・・・危ないな・・・」と感じる場所があるいう課題意識から、アンケートを作成、MAP に書きこむことにしました。そのアンケートが写真にある「WANTED」です。この中には、市ケ尾高校のある地域の地図が掲載されていて、「危険だと思う場所に●▲■で、印を付けてください」とあります。このパンフレットには、チーム「まもる」のメンバーのメッセージが載っています。また「WANTED」のレイアウト等は地域に在住するデザイナーの方がプロボノとしてかかわってくれたそうです。
竹原さんの講演会が終わった後でこのメッセージを読んでみると、コミュニティスクールとは、このような意識の生徒達が育つ、そして育てることを目標にしている学校であると実感しました。メッセージを紹介します。

市ケ尾中学校２年
私がこのグループに入った理由は、塾の帰りなど街灯が少なかったり、人気が少なくて怖いなと思っていて、私とおなじような思いをしている人が少しでも安心して暮らせるようにしたいと思ったからです。それと同時に、人気が少なかったり、暗かったりすると、ただ怖いだけでなく、不審者などに遭遇したりと、市ケ尾のまちがどんどん怖い場所になっていって、住みたいと思う人が減ったり、住んでいる人が不安に思ってしまったら、楽しくないなと思ったからです。
私は小さい頃から市ケ尾に住んでいてたくさんの思い出があります。だからこそ市ケ尾のまちをもっとよくしていきたいと思っています。だからまず私たちの身近なところから、すこしずつ、このまちに住んでいる人も住んでいない人も、「ここに住み続けたい」「市ケ尾のまちに住みたい」とおもってもらえるようにしていきたいです。

市ケ尾高校１年
「青葉区を守りたい」その一心で、私はチーム「まもる」として活動を始めました。私は現在１年生です。小中学校の頃は消極的だった私ですが、今は生徒会をはじめ、市ケ尾ユースプロジェクトなどの様々な活動に参加し、積極的に動いています。今一番気になるものは、話題のパンケーキ屋さんやファッション、友達の恋愛事情など、本当に極々ふつうの女子高生です。このチームに入ったときは、私一人の力では何も変わらないのではないか、中学生や大人の方たちと上手にやっていけるかなと、期待よりかは不安の方が大きかったです。ですが、活動を続けていくうちに、「こんな極ふつうの私が、誰かの役に立つかもしれない！！」と思うようになりました。今の私は、自信と希望にあふれています。誰か一人のアンケートで、何かが変わるかもしれません。私たち一人一人が協力すれば、明日が変わるかもしれません。青葉区の未来は私たちにかかっています！

コミュニティスクールの取組の中で、生徒たちは、次のような体験をします。
●ホンモノと出会う、ふれあう
●人への信頼、多様な人との出会い
●リアルな課題に向き合う
●地域でのつながりと信頼が高まる
このような体験により、生徒たちの中の「好奇心」と「志」にスイッチが入ると言います。
市ケ尾高校のある高校生のメッセージを竹原さんが紹介してくれました。これは、平成２９年１２月に地域教育実践交流会での市ケ尾高校の発表の結びの言葉です。

ノルウェーの劇作家ヘンリック・イプセンはこう言いました。
「社会は一つの船のようなものだ。誰もが舵をとる準備をしなければならない」と
そう！地域社会の課題を解決するのにも地域を向上させるにも、行政だけが動いてもダメなんです。豊かなスキルや経験を多く持つ大人が活動するだけでもダメなんです。活力あふれる中高生が考えるだけでもダメなんです！それを実際に行動を起こし！実践し！地域住民を巻き込んで、またそれとともに実現をめざさないと意味がないんです！
地域を変えるためには地域が動かなければならない、一人一人が舵を取って船を動かす。まさにそういうことなんです。

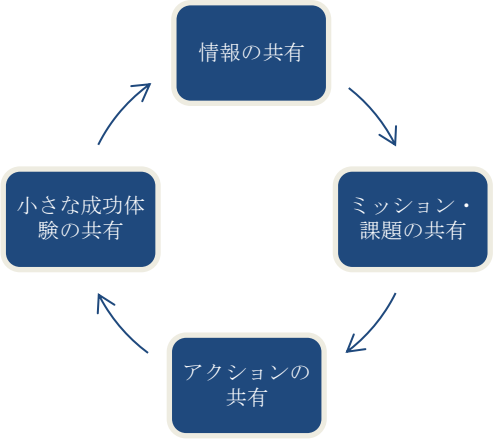


お気付きのことと思いますが、中学校は、横浜市立です。市ケ尾高校は県立。近くにある学校でも、この行政による違いは、大きな壁になっていることを経験されている府立高校も多いと思います。中学校も高校も共にコミュニティスクールであるということから、このような連携ができます。これがコミュニティスクールの利点であると思います。つまり、左図のように、「子どもの成長」というものを時間軸と空間軸で捉え、「子どもの成長」を地域のど真ん中において考えれば、コミュニティスクールという考え方に行き着くというのは当たり前だと、竹原さんは訴えます。

さらに高校にとって地域とは何かという問題です。それは、学校が立地しているところ、市町村であり、高校生達が通学しているところなのです。高校段階になると、地域の人たちから「何かをしてもらう」ということより、「高校生が地域に貢献する」ということが大事であると竹原さんが言います。

（3）コミュニティスクールの運営・発展で大切なこと。

次に竹原さんが話されたことは、コミュニティスクールの運営と発展について大切な考え方です。それは、一言でいうと「プロセスを共有する」ということです。このプロセスには様々な段階があります。竹原さんは、それを次のようなサイクルで示されました。



例えば、情報の共有です。竹原さんは、情報の共有に当たって次のような点が大事であると指摘します。

●地域の時間の流れ・経緯・歴史を意識する
●キーパーソンを見つける
●情報源情報を持つ
●地域の生きた情報は人が運ぶ

そして、最後に情報を共有するツールとしてコミュニティカレンダーがあるといいます。コミュニティカレンダーには、学校のことだけではなく、地域の様々な情報が掲載され、その情報を地域全体が共有することができます。

アクションの共有では、高校受験に向けた面接練習を地域の方々が担当するという報告をされました。学校の中に地域の方が入ることで、巷で噂されている学校のイメージと実際に生徒と接して思うことに地域の方々がギャップを感じると言います。面接に当たった地域の人は、面接終了後に誰しもが言うらしいです。「いやー私のところに素晴しい生徒を寄こしてくれてありがとう」と。実際は、そんなことは行っていないのですが、地域の方が生徒と接することで、生徒の頑張りが理解できるということです。

（4）チューリップの並木道の話

最後に、竹原さんがいつも話をするエピソードを紹介します。同じ区内の話として、川が流れていて、不法投棄もあり困った風景でした。しかし、この川を何とかしたいと地域の方々が話し合われました。そして学校も生徒も一緒になって話し合ったのです。まずは、行政にお願いして、不法投棄の処分を行い、そのままほっておくとまた不法投棄があるといけないから、川べりに花を植えようということになりました。どんな花を植えようかとなったときに、チューリップを植えようと決まりました。時が過ぎて、ある時、自治会長が竹原さんに内緒の話をします。「実は、チューリップと決めた、私なんだ」と。校長も話をします、「チューリップに決めたのは、子どもたちなんです」と。竹原さんは仰います。「これがコミュニティスクールの姿なのです。みんなが、自分が関わったんだ、自分達がやっているんだという気持ちです。当事者意識ですね。それが大事です。昔は、『おらがまちの学校』という意識は多くの地域の人が持っていました。それをもう一度、取り戻そうというのが、コミュニティスクールの取組ではないでしょうか」と。

【4】最後に

竹原さんの講演の後で、私はお礼の挨拶とまとめの話をしました。参加した人たちの顔を見ると、みんなニコニコしています。すごく顔が上気しているのです。後で何人かに感想を聞いてみると、「講演を聴きながら、あんなこともできる、こんなこともやってみたいって次から次に頭の中に浮かぶのですよ。いい話でした。」という感想が返ってきました。私も全く同感です。同じ気持ちになりました。〇〇高校の先生からも「保護者や地域の人が学校に関わるというのに、何か心の中で壁やハードルを感じていたが、竹原さんの話を聞いたら、そんなことは思わなくて良い。もっと気軽に一

緒にやっていけばいいんだと思いました」という感想が返ってきました。
　大阪府立高校は全てコミュニティスクールになりました。平成３０年4月１日段階、全国の高校で３８２校がコミュニティスクールです。そのうち大阪は１３６校、実に導入校の３５．６%を占めています。この数値を見たときに、大阪の府立高校の果たさなければならない役割の大きさと重さを痛感しました。